



福島県立梁川高等学校
 令和元年5月17日
 校長だより
 知性 誠実 責任
 第9号

■ 県立高校が変わります ～ 改革前期実施計画（2019～2023年度）～

《少子化の進行》

福島県の中学校卒業（見込）者数を見てみると、以下のようになります。

1999年3月	28,988人		
2010年3月	21,930人		
2017年3月	18,482人	}	2017年度～2028年度までの減少数 △約5,300人(△28.9%)
2023年3月	15,511人		
2028年3月	13,144人		

望ましい学級規模を1学年4～6学級とすると、2017年度から2028年度の間、県立高校全体で104学級程度の削減が必要になります。既に、2018年度に15学級削減しており、今後、さらに89学級程度の削減が必要です。これは、1学年4学級規模の学校、約22校の減に相当します。

参考までに、福島県の市町村立小・中学校数の状況は次のとおりです。

小学校	平成20年度	512校	→	平成30年度	436校	△76校
中学校	平成20年度	238校	→	平成30年度	218校	△20校

《県立高等学校の小規模校化》

福島県では、東日本大震災の影響もあり、これまでは基本的に学校数を維持したままで学級数を減らしてきました。

1学年当たりの学級数で見た学校規模を全国と比較してみると、1学年当たり3学級以下の小規模校は全日制課程全体の37.1%であり、全国平均20.7%に比べて高い割合になっています。

特に、1学年当たり2学級規模の学校は23.5%であり、全国平均7.5%に比べて非常に高い割合になっています。



少子化の中であっても教育活動を充実させていく必要があります。このような状況から高校改革は避けては通れません。各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、魅力ある高等学校づくりを推進することになりました。

《県立高等学校改革計画のポイント》

- ① 望ましい学級規模を1学年4～6学級とし、3学級以下の学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進する。
- ② 過疎・中山間地域においては、学習機会の確保のために、1学年1学級規模の本校化などを例外的に実施する。また、新たな分校は設置しない。
- ③ 25校を対象として統合等を推進する。分校2校は募集を停止する。3校を1学級で本校化する。
- ④ 全ての学校を6つの学校群のいずれかに位置づけ、各校の特色化を推進する。
- ⑤ 探究活動、課題解決型学習の推進、地域自治体、企業、大学等との連携により、地域を学習フィールドとした地域課題の探究活動を推進する。

《再編する高等学校と再編の方向性【県北地区】》

学校名	2018年度（H30）の学科		実施予定年度	再編の方向性（学科・学級数）	
梁川	普通	2	2023年度	普通	6
保原	普通4・商業1	5			
二本松工業	工業	3	2023年度	工業3・家庭1	4
安達東	総合	2			

《伊達地区の新しい学校づくり》

- ◇ 開校年度 2023年度予定
- ◇ 使用校舎 保原高等学校の校舎
- ◇ 学科構成 普通科6学級
- ◇ 統合校における教育活動の方向性
 - 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により、生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
 - 梁川と保原の取組を継承し、生徒一人一人へのきめ細かな学習指導と、ICT機器を積極的に活用した探究的な学びを推進するとともに、進学から就職までの幅広い進路希望に応じた進路指導により、生徒の進路実現を図ります。
 - 地元企業や伊達市との連携により、地域に根ざした人材を育成します。
- ◇ 検討する統合校の特色化
 - 商業科における取組を発展させた普通科における地域活性化に向けた課題探究学習
 - 進路希望に応じたコース制の導入
 - ICT機器活用によるアクティブ・ラーニング